

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	歴史 I
科目基礎情報					
科目番号	0022		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 3	
開設学科	創造工学科 (機械コース)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	教科書: 笹山晴生他編『高校 日本史B』 (山川出版社)				
担当教員	山田 充昭				
到達目標					
古代から近代にいたる日本の歴史的事象の大局を把握し、各歴史的事象の間にある因果関係を考察できる。また、日本の歴史的経緯が現代の日本社会に及ぼしている影響をおよぼしているのか推測する力を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
基礎的な歴史事象の認識する力	歴史用語等を多く習得しており、かつ、同用語等を駆使して各時代の特質を説明することができる。	歴史用語等を習得しており、同用語等の意味も理解することができる。	左記ができない。		
歴史事象間の因果関係の考察する力	各時代の政治・社会情勢がどのような事件を引き起こし制度を生み出したか、またその制度や事件が、次世代のどのような政治・社会現象を起こす原因となっているか、その経緯脈絡を説明することができる。	各時代の社会情勢を特徴づけている原因を説明することができる。	左記ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
(B) 幅広い教養と技術者・研究者としての倫理を身につける。					
教育方法等					
概要	日本史を軸に関連する世界情勢も織り交ぜながら、おおよそ原始時代から近代社会成立までの政治・社会情勢を、時系列に従って説明。受講者は、歴史事象間の因果関係や時勢の大局を把握し、各歴史事象が“しかるべくあった”原因・背景を推察できる力を身につける。				
授業の進め方・方法	遠隔授業形式。教科書は、授業内容を確認する一手段として使用。teamsにアップされた授業ファイル（音声解説付）をもとに学習する。授業ファイルは、毎週月曜日にup。一週間をかけて学習し、授業ごとに設定された小テストを受けることで、各授業における自身の到達度を自己認識する。				
注意点	学修単位科目であるため、各授業で提示される課題への取り組みは必須。評価は定期試験60%（前期末30%、学年末30%）、各授業ごとに実施するformsでの小テスト40%の割合で行う。				
事前・事後学習、オフィスアワー					
teamsチャットで、授業に関する質問、学習相談を随時受け付ける。					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス (対面形式)	シラバス、授業の留意点についての説明	
		2週	原始 (遠隔形式)	旧石器～弥生時代の遺跡・遺物の特徴をふまえ、弥生時代から“生産経済”の段階に入ったことを説明できる。	
		3週	原始 (遠隔形式)	弥生時代の埋葬施設や集落跡の特徴をふまえ、当時の社会に“階級分化”や“集落間闘争”が発生したことを説明できる。	
		4週	古代 (遠隔形式)	○中国歴史書が日本の小国について記述する理由の一つに、“自国支配体制の安定化”があったことを、「中華思想」・「有徳君主」・「朝貢」・「返礼」等の語句を用いて説明できる。 ○7C頃の大和朝廷が、中国制度の導入や中国王朝との対等化を通して勢力再建をはかったことを、“遣隋使派遣”や“大化改新断行”等の歴史事象と関連付けて説明できる。	
		5週	古代 (遠隔形式)	“日本貴族の出現は大宝律令によって始まる”と言えることを、「官位相当制」・「蔭位の制」等の用語を用いて説明できる。	
		6週	古代 (遠隔形式)	8世紀前半の鎮護国家政策について、その成立背景に“天然痘の流行”や“藤原広嗣の乱”があったことを説明しなさい。また、政策実現のために、「国分寺建立の詔」や「大仏造立の詔」が発せられたことを説明できる。	
		7週	古代 (遠隔形式)	「宇佐八幡宮神託事件」等の用語を用い、奈良末期に仏教が政界に介入していたことを説明しなさい。また、こうした仏教勢力を政界から排除するために“遷都”という手段が講じられたことを説明できる。	
		8週	古代 (遠隔形式)	9世紀中頃における“幼帝の出現”をふまえ、平安時代における「摂政」と「関白」の職務上の相違を説明できる。	
	2ndQ	9週	古代 (遠隔形式)	奈良～平安時代の地方社会の変質をふまえ、地方武士団が出現したことを、「墾田永年私財法」、「国司」等の語句を用いて説明できる。	

後期	3rdQ	10週	古代（遠隔形式）	院政を行った上皇達が、政権を掌握し続けるにも関わらずあえて譲位することのねらいを、“皇位継承の安定化”と関連付けて説明できる。
		11週	中世（遠隔形式）	12C中頃に武士が政治的発言力を強めてきた原因を、“保元平治の乱”と関連付けて説明できる。
		12週	中世（遠隔形式）	「鎌倉時代の「御家人制」を特徴づける、“御恩”“奉公”の具体的内容、「惣領制」と呼ばれる親族構造の概要を説明できる（前半）。
		13週	中世（遠隔形式）	「鎌倉時代の「御家人制」を特徴づける、“御恩”“奉公”の具体的内容、「惣領制」と呼ばれる親族構造の概要を説明できる（後半）。
		14週	中世（遠隔形式）	幕府による承久の乱事後処理の概要をふまえ、政治体制が“公武二重支配”から“幕府単独支配”に転換したことを説明できる。
		15週	総括（対面形式）	前期授業内容についてふりかえり、要点を整理することができる。
	4thQ	1週	中世（遠隔形式）	9代執権北条貞時治世期に定められた“永仁の徳政令”について、制度の背景、制度の概要等を説明できる。
		2週	中世（遠隔形式）	相互に関連の深い“両統迭立”と“南北朝分裂”について、その決定的相違点を指摘できる。
		3週	中世（遠隔形式）	室町時代の守護大名と戦国時代の戦国大名の、それぞれの地方支配のあり方の違いを指摘できる。
		4週	中世（遠隔形式）	幕政を安定させた将軍足利義満の政策、“守護大名統制”、“南北朝統一”、“勘合貿易開始”について説明できる。
		5週	中世（遠隔形式）	応仁の乱の発生経緯、事件の概要をふまえ、15C中頃に室町幕府の支配が衰え戦国時代が始まることを説明できる。
		6週	中世（遠隔形式）	応仁の乱の前と後で、支配者の特質に変化が見られることを、“座”、“関所”等の語句を用いて説明できる。
		7週	近世（遠隔形式）	戦国大名のキリスト教への対応は、豊臣政権や江戸幕府の政策とどのように違うか説明できる。
		8週	近世（遠隔形式）	織豊政権では、日本全体を支配する権力の正当化にどのような手段が用いられたのか説明できる。
		9週	近世（遠隔形式）	江戸時代の幕藩体制が著しい地方分権体制であったことを、“天領”・“藩領”の支配のあり方をふまえて説明できる（前半）。
		10週	近世（遠隔形式）	江戸時代の幕藩体制が著しい地方分権体制であったことを、“天領”・“藩領”の支配のあり方をふまえて説明できる（後半）。
11週	近世（遠隔形式）	江戸の三大改革にみられる財政再建策が、年貢増収を基本政策としていたことを、“定免法”、“帰農令”、“上知令”等の語句を使用して説明できる。		
12週	近代（遠隔形式）	江戸時代、鎖国政策をとっている間にヨーロッパで起こった産業革命が、国際社会全体の変革をもたらせたことを、“工場制機械工業”・“植民地政策”・“世界資本主義”等の語句を用いて説明できる。		
13週	近代（遠隔形式）	19Cの日本に“尊皇攘夷”思想が成立し、幕府により“公武合体政策”がとられるようになった経緯を、“安政の五か国条約締結”と関連付けて説明できる。		
14週	近代（遠隔形式）	幕府が滅亡に向かう原因を、第一次長州征伐と第二次長州征伐との相違に関連付けて説明することができる。		
15週	総括（対面形式）	授業内容についてふりかえり、要点を整理することができる。		
16週				

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
		現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協働し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3		

### 評価割合

	試験	小テスト				合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	100

基礎的能力	50	30	0	0	0	0	80
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	10	0	0	0	0	20